

病院外心停止に対する包括的治療体制の構築に関する研究のお知らせ

①対象：日本全域で発生した院外心停止のうち、救急隊が蘇生処置を行い、本研究登録医療施設に搬送された症例。

②研究機関名：奈良県総合医療センター 救命救急センター

③目的：院外心停止例の搬送先病院の治療体制、搬送後の集中治療内容を調査し、院外心停止例の社会復帰率向上に寄与する適切な治療ストラテジーの検討を目的としております。

④方法：院外心停止症例の受け入れ後、症例登録を行い、「院内登録記録表」の項目に従い、必要事項を入力します。事務局がプレホスピタルデータ（ウツタイン大阪データ）と院内登録データを連結し、病院前情報と病院到着後の治療と神経学的予後について、調査します。

⑤意義（医学的意義）：院外心停止に対する BLS、ACLS は、AED の普及も含めて、この 10 年間でかなりの進歩を遂げましたが、集中治療に関するデータを病院前救護のデータから連結して得たうえでの議論は、いまだかつてありません。本研究は、既に病院外心停止症例に関する臨床研究の土壌が備わっている大阪のシステムを利用して、蘇生後の社会復帰率を更に改善する研究に繋がるという点でも医学的に大変意義深いと考えられます。

⑥個人情報の取り扱い：氏名、生年月日、を含む個人を特定できるデータは、症例登録の時点で切り離されているため、症例から遡って個人を特定することは不可能です。

⑦問い合わせ先：奈良県総合医療センター 救命救急センター

研究責任者 野村泰充 電話 0742-46-6001

⑧研究対象者に研究への参加を拒否する権利を与える方法：本研究は、介入を必要としない観察研究であるため、症例登録のいかんにかかわらず、治療法に影響は全く及ぼしませんが、症例登録をすること自体の参加の拒否については、主治医への口頭での意思表示、もしくは、電話での意思表示でお伝えいただくことができます。